

はしがき

本冊子は、「文学部就職委員会」が2009年1月下旬から2月にかけて実施した「金大文学部卒業生の印象・評価についてのアンケート調査」の報告書である。（「文学部」は2008年度〔平成20年度〕に「人文学類」に改組された。）

現在の「文学部就職委員会」（以下、就職委員会と略称する）は、2008年4月に発足した。就職委員会が文学部卒業生の就職先を対象にして、2008年度に何らかの「アンケート調査」を実施することは、現就職委員会が発足する年度以前に、文学部の年度計画によってすでに決定されていた。しかし、その具体的な内容を知っている人は誰もいなかった。就職委員会に前年度の委員が残ることもなかった。

少し具体的に考えればわかることであるが、かりに卒業生の就職先に「文学部卒業生の評価をお聞かせ下さい。〇〇の点についてどう思われますか」と質問したとしても、就職先の企業等はまず当惑するであろう。就職先の組織の中で、誰が文学部卒業生であるのか、すぐにはわからないかもしれない。また、何人かの文学部卒業生がいるとわかったとしても、個性の異なる卒業生が複数人いれば、どのように答えればよいか迷うだろう。

文学部卒業生の年齢の幅は広く、勤務先によっては、すでに定年にさしかかる年齢の卒業生もいると承知している。新卒ほやほやの若者もいる。規模の大きな企業（団体）であれば、複数の文学部卒業生がいるかもしれないし、文学部卒業生と金沢大学の他学部卒業生との区別は簡単につくだろうか。

「どのような方法でどのような内容のアンケート調査」をやればいいのか、われわれの戸惑いは大きかった。

しかし、改組が実施され、4年たてば、人文学類卒業生が輩出するようになる。そのほかの諸般の事情もあり、とりあえず、担当者2名をきめて、作業に取りかかった。方針は、大略、以下のとおりであった。

- (1) 「何を尋ねているのか」「何を尋ねられているのか」、就職委員会と回答者の双方にとって、なるべく明確になる質問文を作る。
- (2) 「アンケート調査」のタイトルは、「金沢大学文学部卒業生の印象・評価についてのアンケート調査」とし、「印象・評価」というおおづかみな言葉を使うことにした。
- (3) 個々の卒業生の評価ではなく、就職した組織の中にいる近年の金沢大学文学部卒業生をまとめて、それに対する「印象・評価」をお尋ねするという形式にした。
- (4) 「アンケート調査」全体を簡略なものにする。

上記の方針の下に、調査項目を作成した。2007年度（平成19年度）の文学部卒業生は164名（9月卒業1名+3月卒業163名、学務第一係調べ）、そのうち就職をし、かつ就職先が明確に

わかるのは、114名であった。114名のうち就職先住所がわからないものは除き、複数の卒業生が就職しているところは1ヶ所にまとめ、101企業(団体)に調査票を郵送した(調査の詳細は、「調査概要」、「調査資料」のうち「ご協力のお願い状」と「調査票」の1頁目「説明とお願い」等を参照のこと。)

調査期間中は、電話による問い合わせに対応できるようにした。回収率は比較的高い(45.5%)。本学部に対する回答企業(団体)の配慮が働いた回収率であろう。

返送はされたが、すべての項目に対して無回答のものが、3票あった。3票の無効回答にはすべて、添え状や添え書きが付されており、「この種のアンケート調査には回答できない」旨の断り書きがあった。推測するに、ある特定の卒業生に対する「個人評価」と受け取られるのを避けた、大学別の評価と受け取られるのを避けた、また、本学文学部卒業生が多く働いているところであれば、(前述のとおり)一概に答えることはできない、などが「回答しない」理由であろう。3票の「無回答」という意思表示は、重要なメッセージである。3票のうち2票は、市や国の機関であった。3票の「無回答」以外にも、この「アンケート調査」を受け取って、とまどわれた企業(団体)もあったかもしれない。ご海容いただければ幸いである。

この種の「評価」を尋ねる「アンケート調査」は、慎重に企画したいものだ。

この調査にご協力いただいた企業(団体)等の方々に、心より御礼を申し上げる。皆様方のご健勝とご発展をお祈りしたい。文学部卒業生のご健闘を祈る。この調査の結果は、今後のわれわれの教育活動に活かしてゆきたい。

調査の実施、集計作業に関しては、文学部社会学研究室の院生や学部生の助力を得た。研究室の諸君に感謝する。

この調査の報告書が遅くなったこととお詫びしたい。

2010年2月

金沢大学文学部就職委員会

溝部明男

高田茂樹

参考文献

金沢大学工学部・教育方法改善委員会編集・発行. 2008. 『金沢大学工学部 第8回 卒業生の達成度評価(アウトカムズ評価) アンケート調査結果報告書』(溝部付記 この工学部の調査は、卒業生を調査対象者としている。われわれ就職委員会の調査は、就職先を調査対象としているという違いはあるが、参考にさせていただいた。)